

朝の読書に活用

青森銀行が小泊中へ図書を寄贈

青森銀行が創立70周年記念事業として行った「アオモリ川柳コンテスト」へ小泊中学校1学年が全員で作品を応募し、このコンテストを盛り上げてくれたことに対して、3月12日(水)小泊中学校へ同銀行から図書が贈呈されました。



外崎支店長 成田千颯さん

この日は、青森銀行金木支店・外崎支店長が来校し、中学生の部「特別賞」を受賞した成田千颯(1年)さんへ図書の目録が手渡されました。外崎支店長は「多くの作品を応募していただきありがたい。これらの図書をぜひ役立てて欲しい」と話し、一方、山内

校長からは「いただいた図書は朝読書タイムで活用していきたい。生徒たちも喜んでくれると思う」とお礼を伝えました。成田千颯さんの作品「超巨大ねぶたを生でみてほしい」

角巻きなど当時の生活を紹介

「宮野沢かっちゃんず」ストーブ列車で交流

外崎令子さんから宮野沢地区のみなさん11人が、「宮野沢かっちゃんず」として、ストーブ列車を利用する観光客に角巻きや「ねんねこ」、「しょいこ」などを身にまとい、当時の生活などを紹介するイベントを行いました。



この赤ちゃんは「つーちゃん」というそうです

メンバーはなんと70~90歳。当初は金木駅までの予定でしたが、津軽鉄道からの要望もあり津軽五所川原駅までを往復することになりました。

「かっちゃんず」のみなさんは、ファッションショーのように通路を往復し、刺繍などを施したオリジナル角巻をそれぞれ披露しました。「かわいい、あったかそう」などと声をかけられたり、列車は大きな拍手に包まれました。珍しい衣服に、ストーブ列車の利用者たちは記念撮影をするなど「かっちゃんず」との交流を楽しんでいました。

外崎さんは「多くのお客さんに喜んでもらえてよかった。いいPRになったと思うし、自分たちもやりがいがある。また、機会があれば行いたい」と手応えを感じていました。



まるでファッションショー

ロボットコンテストで好成績

小泊少年少女
発明クラブ



町長へ当日の状況を説明

2月15日(土)に行われた第15回青森県げんねんジュニアロボットコンテストで好成績を取った小泊少年少女発明クラブのメンバーが、3月12日(水)町長を訪問し大会の報告をしました。この大会は約250人が参加し、初級、中級、上級の部門に分かれ、選手たちは約4ヶ月かけて製作した自慢のロボットで挑みました。今年も各部門とも上位入賞を達成し、好成績を残しました。ロボットのデザインには中泊町をアピールするため、町章や町名をあしらったそうです。初級出場の川山くんは「今年は決勝トーナメントまで勝ち進み、団体戦では3位に入賞できた。表彰台に上がった時は緊張した」と当日を振り返っていました。

いました。

大会結果(※3位、特別賞を掲載)

■初級部門：個人戦3位 佐々木亮太(小泊小6年) / 団体戦3位 佐々木亮太、磯野海吏、川山雄生、磯野結莉、藪田洸哉

■中級部門：優勝 升田柊(小泊小6年)

■上級部門：審査員特別賞(アイディア賞) 西久保健(小泊中2年)



相澤専任指導員と沼田会長

また、沼田会長と相澤専任指導員(中里小教諭)には、10年以上にわたる発明クラブ活動が評価され、全国表彰があり、この場で報告しました。沼田会長は「小さな町で活動している私たちに全国表彰の話がきたときは夢のようだった。子どもたちと、地域のみなさんの協力のおかげ」と話していました。

人命救助に尽力

齋勝建設(株)社員に表彰状

人命救助に尽力した齋勝建設(株)社員5人(伊藤芳忠さん、柏崎貴人さん、佐藤洋二さん、高橋光司さん、伊藤芳伸さん)が、3月14日(金)五所川原地区消防組合(五所川原消防署内)で平山管理者より、表彰されました。

5人は下前地区で港湾工事の作業中、近くの住宅で火災が発生した際に、逃げ遅れて2階にいた50代の男性を発見。消防への通報はしたが、男性が2階から飛び跳ねようとしていたため、それを阻止し、自社所有の重機を使って無事救助しました。

この日の贈呈式には、伊藤芳忠さんと佐藤洋二さんが参加。管理者との懇談では、救助方法などを説明したあと、佐藤さんは「早く対応しないといけない状況であった。飛び



佐藤芳忠さん、佐藤洋二さん

び跳ねていたらケガをしていただろう。無事に救助できて良かった。5人のチームワークがうまくいった。」と話し、当時の状況を振り返っていました。